

新たな数学の創造をめざす「高木レクチャー」開催

数理科学研究科

類体論を確立した世界的な数学者であり、数学の国際賞として最も栄誉のあるフィールズ賞の第一回選考委員(一九三二)も務められた高木貞治先生(一八七五―一九六〇)のお名前を冠した講演会「高木レクチャー」が十一月二十三日(祝)に駒場キャンパスで開催されました。

高木貞治先生は、一九〇四年から一九三六年まで本学教授をされ、今日まで読みつがれている教養学部用教科書『解析概論』を一九三八年に出版しております。

今回、日本数学会と東京大学大学院数理科学研究科の共催となった「高木レクチャー」に招聘された講演者は、確率論やファイナン

スでも著名なマリアヴァン教授(パリ第六大学)と、世界最速のコンピュータを自作して多体問題の数値解析を行い、天文学の最先端の研究に挑んでおられる牧野淳一郎教授(国立天文台)の二人。

マリアヴァン教授は「無限次元の群の不変および準不変な確率測度」と題した講演を、牧野教授は「手作り計算天文学―ハードウェア、アルゴリズム、ソフトウェア、サイエンス」と題した講演を、それぞれ午前、午後と連続して行われました。

両者が自ら創造した最先端の理論が展開されることにより、祝日にもかかわらず

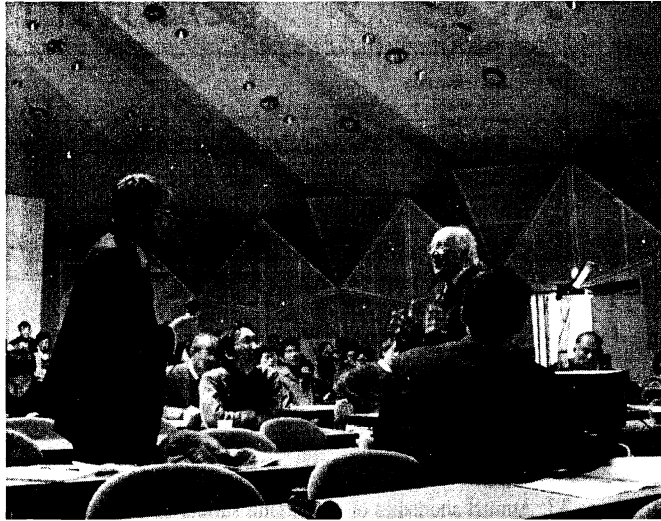


写真1 本学の楠岡成雄教授の質問にこたえるマリアヴァン教授

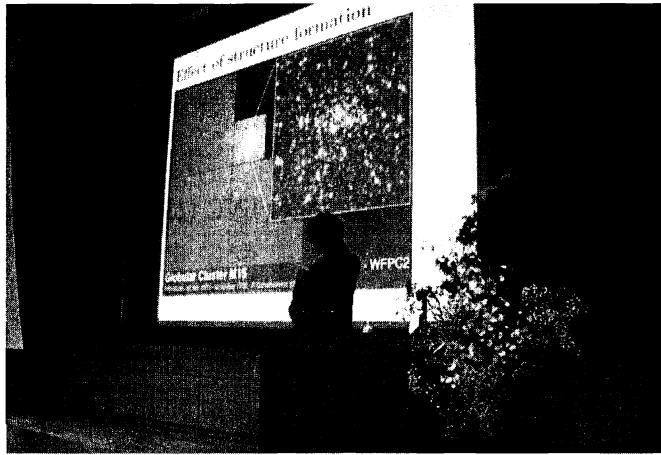


写真2 熱気につつまれた牧野淳一郎教授の講演

ず百数十名もの聴衆が集まった会場は、夢あふれる熱い空気につつまれました。「高木レクチャー」は、日本人の数学者の名前を冠した定期的な講演会として最初のものです。一九二四年から継続して刊行されてきた日本発の数学欧文誌『JM』の新シリーズ出版と連動して、日本数学会の理事であった本学の小林俊行

教授が立案し、日本数学会が母体となって行われることが二〇〇六年に決定しました。

毎年、世界的に卓越した数学者を講演者として招聘し、気概に満ちた研究総説講演を若手研究者・大学院生を含む専門分野を超えた数学者が聴くことにより、創造のインスピレーションを引き起こし、新たな数学の発展に寄与することを目的としています。

第三回となった今回は東大で開催されたので、桂利行研究科長から事務職員、学生にいたるまで協力しい、その活動を支えました。講演の様子は東大数理レデオアーカイブプロジェクトチームによって撮影・記録されています。